

第3章 景観づくりの目標

1. 目標とする景観像

弘前市の景観は、岩木山を始めとする豊かな自然に守られ、城下町を舞台に400年の歲月の中で、人々の暮らしや様々な営みが積み重なることにより形づくられてきました。

この優れた自然・歴史・文化に彩られた景観を守り、創り、はぐくむためには、市民一人ひとりが先人から受け継いだかけがえのない財産として、景観に愛着と誇りを持ち続けることが必要と考え、目標とする景観像を次のとおり定めます。

「自然に抱かれ、歴史と未来がつながるまち 弘前」
～住まう人が愛着と誇りを感じ、
訪れる人の心に刻まれる景観づくり～

2. 景観づくりの基本方針

弘前市固有の景観特性を踏まえ、「自然に抱かれ、歴史と未来がつながるまち 弘前」の実現に向け、景観づくりの基本方針を以下のとおり定めます。

「自然、田園、市街地がつらなる景観づくり」

弘前市の景観は、市街地を取り囲むようにりんご園や水田などの田園風景が広がり、その背景には、東に八甲田連峰、南に白神山地、西に岩木山と三方を山々に囲まれています。この市街地から田園、そして山地へ連なる景観は、弘前市という都市の奥行きを実感できる重要な特徴です。特に、市内の各所から眺めることができる岩木山は、商業地や住宅地などの市街地や、りんご園や水田などの田園地域の背景にそびえ、津軽の原風景として人々の暮らしに息づき愛されています。

このような空間的な奥行きを活かし、岩木山の眺めを始め、自然、田園、市街地のそれぞれの特性が感じられ、一体としてつながる景観づくりを進めます。

「歴史と伝統が息づく風格のある景観づくり」

約400年前に築かれた城下町の町割を基に形成された市街地には、城下町の面影が残る寺院街や伝統的建造物などの歴史的資産が数多く残されています。また、街なかから眺望できる最勝院五重塔は、歴史を感じられる景観として市民に親しまれています。さらには、さくらまつりやねぷたまつり、お山参詣など、長い歴史と伝統を経て受け継がれてきた祭事もまた、弘前ならではの景観です。

このような歴史の奥深さを感じることができる景観を生かし、歴史と伝統が息づく風格のある景観づくりを進めます。

「進取の気質あふれる、活力とにぎわいのある景観づくり」

弘前市の景観は、城下町の面影が残る寺院街や伝統的建造物などが残る一方、キリスト教の伝来や軍都、学都としての歩みによる明治・大正期の洋風建築のほか、前川建築を始めとした近代建築が点在するなど、新旧、和洋の異なる要素が混在していることが魅力となっています。

このことは、歴史を通じて古いものを大切に守りながら、新しいものを積極的に取り入れてきた弘前市民の「進取の気質」のあらわれです。

今後も、歴史あるものに新しいものが融合する活力とにぎわいのある景観づくりを進めます。

「市民・事業者・行政の協働による、守り、創り、はぐくむ景観づくり」

弘前市の景観は、自然・歴史・文化を背景に、人々の暮らしを始めとした様々な営みを積み重ねながら創られてきました。

市民・事業者・行政がこの景観をかけがえのない財産として共有し、共に守り、創り、はぐくむ景観づくりを進めます。